



2026 年
8 月 5 日
No.A26-04

中東調査会は個人及び法人会員の賛助会費により運営されている非営利の公益財団法人です

中東調査会月間活動誌 (2026 年 7 月)

1. 中東調査会主催の行事

(1) トップ・ミーティング

・7 月 31 日 (金)、田中 浩一郎 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授「新体制下のイランとその対外関係」(於：オークラ東京)

〈要旨〉

田中教授からは、イラン新体制下の権力構造の変化をはじめ、イラン紛争のこれまでの変遷、イランと米国の間で結ばれた覚書をめぐる諸問題、今後の中東及び国際情勢の行方等について説明がなされた。また講演後、活発な質疑応答が行われた。



(2) 中東情勢オンライン講演会

・7 月 30 日 (木)、横田 賢司 駐レバノン大使「レバノン情勢 (ヒズボラの武装解除、イスラエルとの直接交渉)」

〈要旨〉

横田大使より、米国、イラン、イスラエルとの関係が複雑に絡み合うレバノン情勢と、ヒズブラーの影響力が弱まりつつある中でのレバノン政府の試みについて説明があった。質疑では、現在のレバノンにおけるサプライチェーン

や治安の状況、アブラハム合意に対するレバノン政府の立場などについて、多数の質問が寄せられた。



・2026 年 7 月 7 日 (火)、平 寛多朗 中東調査会主任研究員「イスラエル・米国による対イラン攻撃とイスラエルへの影響」

〈要旨〉

平主任研究員は、米国・イスラエルによる対イラン攻撃におけるイスラエルの動機について説明した上で、経済・内政・対外関係の 3 つの観点から、同戦争が与える影響について議論した。また、近年のイスラエル政治の特徴等について、活発な質疑応答が行われた。



2. 中東調査会の活動

(1) 中東トピックスの発行【会員限定】

- ・2026 年 7 月号（2026 年 8 月 5 日付）
- 1. イラン：アリー・ハーメネイー前最高指導者の葬儀が施行
- 2. パレスチナ：ハマース、ガザ地区の和平実現に向けた動き
- 3. イスラエル：ヨルダン川西岸地区で治安維持作戦が拡大
- 4. サウジ：海上交通防衛のための連合軍結成の試み
- 5. エジプト：ダミエッタ港がドローン攻撃を受け船舶が炎上
- 6. トルコ：オゼル派が共和人民党を離脱で最大野党が分裂

※内容はホームページをご参照ください。

https://www.meij.or.jp/trend_analysis/topics/

(2) 中東かわら版の発行

- ・No.50「[イスラエル：レバノンにおけるイスラエル軍の段階的縮小に関する安全保障付属書の内容](#)」（主任研究員 平 寛多朗、7 月 1 日）
- ・No.51「[イラン：専門家会議の一部議員らが米国との和平協議に否定的な声明を発表](#)」（研究主幹 斎藤 正道、7 月 1 日）
- ・No.52「[ペルシャ湾岸諸国：各国の石油・天然ガスの生産と輸出の現状と見通し](#)」（特任研究員 高岡 豊、7 月 2 日）
- ・No.53「[イラン：米中央軍、イラン南部ホルムズ海峡沿岸を空爆](#)」（研究主幹 斎藤 正道、7 月 8 日）
- ・No.54「[モロッコ：国内で強化される「イスラム国」の取り締まり](#)」（主任研究員 平 寛多朗、7 月 9 日）
- ・No.55「[イラン：米国が2夜連続でイランを空爆](#)」（研究主幹 斎藤 正道、7 月 9 日）
- ・No.56「[イエメン：アンサール・アッラーとサウジが空港攻撃の応酬](#)」（特任研究員 高岡 豊、7 月 14 日）
- ・No.57「[イラン：米軍がイランを3夜連続で攻撃](#)」（研究主幹 斎藤 正道、7 月 14 日）

- （研究主幹 斎藤 正道、7 月 14 日）
- ・No.58「[パレスチナ：ガザ政府の「解散」とその問題](#)」（主任研究員 平 寛多朗、7 月 14 日）
- ・No.59「[トルコ：アンカラで NATO 首脳会議開催、同盟内での存在感を押し出す](#)」（上席研究員 金子 真夕、7 月 15 日）
- ・No.60「[ヨルダン：イスラエルによるイランのミサイル迎撃](#)」（主任研究員 平 寛多朗、7 月 21 日）
- ・No.61「[クウェイト：戦時の暮らしの常態化](#)」（特任研究員 高岡 豊、7 月 22 日）
- ・No.62「[パレスチナ：ハマースの新政治局長とその課題](#)」（主任研究員 平 寛多朗、7 月 22 日）
- ・No.63「[アルジェリア：国民議会選挙の結果と無所属議員の激減](#)」（主任研究員 平 寛多朗、7 月 28 日）
- ・No.64「[イエメン：アデン政府が内閣改造を実施](#)」（特任研究員 高岡 豊、7 月 29 日）

※内容はホームページをご参照ください。

<https://www.meij.or.jp/kawara/>

(3) 中東分析レポートの発行【会員限定】

- ・No.5「イスラエルの安全保障における防空システム」（客員研究員 江崎 智絵、7 月 24 日）
- ※内容はホームページをご参照ください
- https://www.meij.or.jp/trend_analysis/report/

(4) その他の活動

- ・東京外国語大学が開講する単位認定科目「国際社会をひもとく A／中東を理解するキーワード」へ当会研究員が出講した。
- ⑩ ジェンダー（上席研究員 金子真夕、7 月 1 日）
- ⑪ 西洋との関係（研究主幹 斎藤 正道、7 月 8 日）
- ⑫ 総括（主任研究員 平 寛多朗、7 月 15 日）

3. その他(要人往来)

- ・2 日、茂木外相は、サウジアラビアのファイサル・ビン・ファルハーン外相と電話会談を行った。
- ・7 日、NATO 首脳会合に合わせてトルコを訪問中の茂木外相は、クウェイトのジャッラーハ・ジャービル外相と会談した。
- ・9 日、第 2 回日本・リビア経済フォーラムが開かれ、リビアのハリーフア・ラジャブ・アブドゥルサーディク石油・ガス大臣やスハイル・アブドゥルムッターリブ・ブーシーハ経済貿易大臣が訪日した。
- ・14 日、高市首相は、カタルのハマド・ビン・ハリーフア前首長の逝去を受け、同国のタミーム・ビン・ハマド首長宛てに弔意書簡を発出した。茂木外相も、ムハンマド・ビン・アブドゥラフマーン首相兼外相宛てに弔意書簡を発出した。
- ・22 日、茂木外相は、ASEAN 関連外相会議に出席するために訪問したフィリピン・マニラで、トルコのエキンジ外務副大臣と会談した。
- ・22 日、茂木外相は、マニラで開かれたパレスチナ開発のための東アジア協力促進会合（CEAPAD）第 5 回閣僚級会合に出席し、パレスチナのハマド社会開発庁長官、及びソンドース国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）事務局長代理と懇談した。
- ・28 日、茂木外相は、イランのアラグチー外相と電話会談を行った。

***会員の皆様は、どなたでも会員限定ページをご覧になれます。**

***ログインに必要な ID とパスワードは、御社の当会担当窓口にお問い合わせください。**